

まちづくり懇談会 上矢作町

日時：平成 29 年 11 月 14 日（火）午後 7 時～8 時半

場所：上矢作コミュニティセンター

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 上矢作について。

上矢作町の人口は 2644 人が 1986 人に減った。世帯数が 863 から 792。1 世帯あたりの人口は平成 17 年が 3.06 人、平成 28 年 2.51 人。ただ、恵那市全体の 1 世帯あたりの人口は今 2.28 なので、若干上矢作の方が多い。人口が減っているにもかかわらず地域によっては世帯が増えているところが多い。ここは世帯も減っている。人口の減り幅が大きい。平成 17 年を 100 とすると、上矢作は 24.9% で 10 年でほぼ 4 分の 1 減っている。恵那市の平均が 9.6%。かなり減り幅が大きい。

出生数。平成 24 年ぐらいまでは 10～13 人の間だった。25 年以降はぐくっと減っている。25 年 7 人、26 年 10 人、27 年 5 人、28 年 5 人。人が減っているのと併せて子どもの数も減っている。出生数は平成 17 年 12 人で 28 年が 5 人。単純に比較すれば 58% 減。

上矢作の事業について。県営農村環境整備事業。小水力発電。釜瀬で、県営事業で、全体の事業費が 2 億 1400 万円、26 年から 30 年の事業期間。

林道暗井沢線の改良。32 年までの事業。1 億 2 千万円ぐらいの全体事業で、29、28 年で、大体 2 千万の事業を行っている。

国道 418 号。下河原地区、中越橋付近。ちょうど工事をやっているところで、僕も現場を見に行った。付け替えのところをやっている。全体では 1 億 4 千万円位、26～29 年で県で負担してもらっている。こういうものも着実に進んでいくように要望を重ねていきたい。

上矢作病院。会計は、ルール分での繰り出し以上の赤字補てんは今のところ恵那市はしていない。大変頑張っていて運営されているという印象だ。ただし、26、27、28 の入院患者の数は 1 万 6897、1 万 5143、1 万 3778。外来の数も、2 万 4 千人が 2 万 1 千人、1 万 9 千人と減っている。述べ患者も 4 万人、3 万 6 千、3 万 3 千とかなりの利用者が減っている。ぜひ病院の存続のためにも利用してほしい。地域の皆さんで上矢作病院をかわいがって

ただきたいと思っている。引き続き皆様のサポートをお願いしたい。

福寿苑。今年の28年から恵北福祉会に指定管理を出した。恵那市直営で運営していたときよりかなり利用度が上がっている。サービスも上がっていると思う。今は稼働が上がっている状況で、たとえば従来型、ユニット型、短期入所、デイサービスとそれぞれ108%、114%、98%、114%ということで、利用の頻度が上がっている。引き続き利用、サポートしていただきたい。

道の駅の再生。先ほど塚田協議会長からも話があった。今取り組んでいるのは地のもの感謝祭などのイベントと、ワークショップをして検討を重ねていただいている。何とかこの道の駅がリニューアルの要望をいただいよいよ取り組むので、何とかこれを成功に導きたい。平成28年の利用者が13万人、売り上げも5千万円前後。ここを、少し単価を上げるとか利用者を増やせばかなり伸び代があると思う。国道257号線を通る車は1日平均3300台ぐらい。道の駅の前で。東野のダムの下では7600台ぐらい通るので、その半分だ。3300台は上矢作地域の人か、南からずっと上がってくる長距離を走る人だと思う。私も何度か257号を通過して浜松や引佐まで下りていく。あまり大きな道の駅もコンビニもない中で、北へ向かってくるとここは最初の道の駅だ。ここを何とか魅力あるものにすることで可能性が広がってくると思う。

泊まる。上矢作町にはいいコテージがたくさんある。僕も昔から利用している。利用者数は、モンゴル村が2600人、越沢で3389人、かわせみで870。売上ベースでは、トータルで2800万円ぐらい。1人当たり単価が3500円前後。ここの稼働率を上げて、今はトータルで7400人だが、1万人ぐらいにすれば、3500万円ぐらいになるので、稼働率を上げる価値はある。上矢作のいいところ、自然の豊かなところ、水のきれいなところを知ってもらういい機会になるので、もっと伸ばしていきたい。

買い物支援。平成26年からスタートし、29年。恵那市としての補助金は、串原と上矢作全体で200万円ぐらい出して、移動販売をしている。水木金土の4日間で上矢作の中では30カ所の販売店、停留所のようなところを設けて利用していただいている。串原、上矢作全体で1年間で700万円ぐらいの売上がある。少しでも買い物に行きにくい方のお手伝いができたらということだ。こういったところのリクエストがあればお知らせいただきたい。

上矢作の日常生活支援。地域の皆様の運営主体。利用も144、149、125で、かなりの利用がある。上矢作独自のサービスだ。ぜひ続けていただきたい。

上矢作オールスターズはほかの地域にはない若い方だけの集まりで、若い方が何かイベントをすることが元気につながると思うし、地域の活性化のためには若い方が一生懸命動くことが大事だと思う。私どももできることは応援していきたい。いろいろな意味でかわっていただきたい。

上矢作の学童ひなたぼっこ。今年から通年型になる。述べの利用人数は711、9月末。順調に利用が増えている。引き続きこちらをサポートできる場所は申し上げていく。声を寄せてほしい。

上矢作の農業について。上矢作全体では253ha農地があり、耕作放棄地は22ha、8.7%。恵那市全体より耕作放棄地の率が少ない。その分一生懸命守っていただいている。トマトも6戸が取り組んでおり1.17ha。一つの大きな特産品になっている。トマトをこれからも伸ばすのもいいし、栗やほかの産品もある。市もどんどん提案するので、ぜひ農業の再生に取り組んでいきたい。

5. 意見交換

■司会 本日レジュメのほかに資料がある。資料について事務局から説明する。

分野。協議会のメンバー、さらに自治連に協力いただき、上矢作各区民から、役員会を通したり回覧や組寄せなどで意見を募ったところ大勢の方に出していただいた。それをまとめる際、市長の政策のはたらく、たべる、くらすという視点でまとめてみた。それが分野だ。

上矢作では、まちづくりの4つの柱、さらにジャンルとして7部会がある。ジャンルでは、自然・観光・農業活性についてとか、安心・安全について、健康福祉についてと、似たような意見をまとめた。

意見をお願いしたい。

■川上 今日は今までと違い懇談会をこういう形でやれるということで楽しみにしてきた。資料の「はたらく」のところで、6に発言したい内容が書いてある。

先ほど話にも出ていたのでお願いしやすい。上矢作の高齢化率が45.3%だと先日聞いた。もうすぐ半分は65歳以上になる。何もしなければそうなる。田舎で暮らすということは、飯田洞でもそうだが、道路を補修するために草刈り機で道刈りをしたり、春になれば農地に水をやる溝さらいをすとか、そういう環境整備がついて回る。時期によればお祭りもあり、地域の高齢の方も若者もみんなというふうにしたところだが、高齢化も進み、そういった作業が年々難しくなっている。そういう中で、先ほど来写真もたくさんあったが、上矢作が今後10年、第2次の恵那市の地域計画を作る中で、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる上矢作という目標に向かっていろいろ考えているが、その点で、僕の意見も言いたい。

上矢作の自然を利用した農業、特に石川トマト農園、梅本こういちさんがやっている梅本農園、ここは6戸と先ほど言われたがこのあいだ1戸は高齢のためにやめたと聞く。ところが恵那市で研修生を受け入れているのはその2戸。そこで働き研修生として3年間済ませて、2年前、15年に、先ほどトマトを摘んでみえたのが山田さんだと思うが、研修生

として石川トマト農園にみえてそこで奥さんと知り合って結婚して子どももみえるということで、上矢作で地域に根付いてこれから就農して子どもたちも増えるといういいモデルだと思う。

私も、上矢作で暮らすということの表紙だけ担当し、第7号にインタビューさせてもらい、町内には配っているが、こういう一つの移住定住で、トマトに研修生で来たというのを大事にして地域に根差してもらえればすごく有り難い。上矢作の活性化につながると思っている。

一つ課題もある。今研修生でみえている人は木ノ実の三宅ふみこさん宅を借りてシェアハウスに住んでいる。女性もみえるそう。上矢作に市営住宅がある。4カ所に47戸あり、今日聞いたら4戸空いている。空いているのにどうして入れないのか聞いてみると、条件があるとのこと。40歳以下、所持持ちでないといけないということで、単身者の入る場所がない。恵那市の決めなので、人を増やす、市の施策の移住定住で、規制を特例としてそういう人に限って3年間、あるいは収納するまで援助してくれないか。

■市長 トマトの研修生が住むところに困っているという話は前から聞いている。農林の担当も、国や県に、住むところを作るための制度が何かないと要望に行っている。私も東京、名古屋に行った。市営住宅を利用できないかという話も聞いている。課題として認識している。何らかの結論を出し住んでいただける仕組みを作る。

■地域連合会・安藤 地域のイベントの現状を話したい。資料を作ってきたので読みながら話す。

現在上矢作町では自治連合会主催で8月にふるさと祭り、10月に福寿まつりを開催している。このイベントでは市の補助金の一部活用されているが、平成31年度で廃止される。今後上矢作住民が補助金なしでイベントなどを続けるに当たり、市としてご指導、アドバイスをいただくようお願いする。なお、イベント等の現状は下記の通り。

ふるさと祭り。資料1。資料1については後ほど説明する。主にふるさとに帰って来られた地元出身者、地元で頑張っているお父さん、お母さん、子どもたちのため、1日ではあるがふれあいの場、また地域活性化の場として祭りが開催され、会場の運営および設営等は自治会を初め多くの町民ボランティアの方々の協力により行われている。内容は、山車の引き回しによる小中学生の太鼓の演奏、盆踊り、地元住民、夜店、打ち上げ花火等々。今年度の参加は約1400人の来場者。また、プレイベントの魚つかみ大会も約300人が訪れた。予算は、市から16万2千円の補助金をいただいている。寄付は上矢作全区、全戸、町内外の企業から120万円ほどいただいている。今年のふるさと祭りには水野県議、小坂市長が来られ、「こんなにたくさんの若者がいる光景が嬉しいです。ぜひ祭りを楽しんでください」と嬉しい言葉をいただいた。後ほど広報でも写真が出ると思う。その折に説明したい。

福寿まつり。資料2。これも後ほど説明する。地域住民の一人一人が自分の健康に関心を持ち、いつまでも健康で長生きしようのスローガンの下、上矢作病院の協力を得て健康相談や健康に関する展示など、町行政の後押しで町民の健康祭として始まった。今年で25回目を迎えるが、地域の伝承文化、地域住民の技なども加わり、年々上矢作最大のイベントとなっている。イベントの内容は、屋外イベントは上矢作小中学生による太鼓の発表、地域の方々による太鼓の回り打ち、ステージイベントとして横道の獅子舞、こども園の発表、各種サークル等の発表、餅投げ等。屋内イベントは健康に関する展示や小中学生の作品の展示、リサイクルの各種バザー等々。内容は、全部市の補助金56万円でまかなっている。このイベントでは投げ餅もある。投げ餅の寄付は、恵南商工会議所上矢作支部と町内外の団体、個人にご寄付をいただいて取り行う。今年度は残念ながら台風接近のため中止となった。

今後の課題や問題点。市の補助金、31年度には0円に伴い、福寿まつりの開催が危ぶまれる。町内では独居老人世帯の増加等で高齢化社会、また人口減少により過疎化が加速する中、地域住民・企業の寄付頼みの開催は無理ではないか。地域のコミュニケーションの希薄化に拍車がかかり、町内の文化、健康などの発表の場が失われる、減少につながらない等の意見が出ている。

今後の祭りのあり方として、基本は、自治力を高め、行事は地域でということを進めていきたい。

資料1はプログラムをコピーしたものだ。オープニングイベント、小学校の太鼓演奏、中学校の太鼓演奏、盆踊り、打ち上げ花火等。子ども魚つかみ大会のプログラムもそこに載っている。4ページは、市の補助金として16万2千円、寄付金で120万円。5ページ目は花火の協賛いただいた方の名前。6ページ、広報紙をコピーしたものだが、まるごと上矢作で、魚つかみの写真。今年度は300人ほどの参加。7ページ、河川公園での魚つかみの様子。真ん中には小中学生による太鼓の演奏。伝承芸能部会の方と小学校5、6年生と中学校1年の子どもたちが毎年ふるさと祭りに太鼓を披露して祭りに花を添えてくれた。下は夜店の写真。8ページ、今年のふるさと祭りには水野県議と市長がおいでくださった。市長からは上矢作町にこんなたくさんの若者がいる光景が嬉しいです、ぜひ祭りを楽しんでくださいという嬉しい言葉を頂戴した。下は盆踊り、花火の写真。9ページは25回福寿まつりのプログラムをコピーしたもの。10ページはイベントのスケジュール。11ページは市から56万の補助金をいただいて全部を福寿まつりの会計をまかなっている。12ページは、今年度は中止になったが昨年度の祭りの様子。太鼓の中学生たち、また地域の住民たちによって太鼓の演奏が行われている状況。次はイベントの横道の獅子舞、子どもたちの太鼓のたたく前の練習、様子、イベント。

冒頭に、市としてご指導、アドバイスをお願いしますと書いた。早速、振興事務局から

アドバイスを頂戴した。佐々木所長から、ふるさと恵那応援寄付金制度があるからこういったことを広めてほしいということだ。上矢作町には19の区がある。区長を通じて、組長、地域の皆様方にこういったことを広めていきたい。

今後何とか地域のことは地域でやっていきたい。振興事務局を通じてアドバイスをいただきたい。

■市長 一言感想を述べる。今年のおふるさと祭りにお邪魔した。本当に大勢の方が集まっているのを見て感動した。福寿祭りも楽しみにしていたが残念ながら天候のため中止だった。どこの地域も一生懸命祭りや運動会に取り組んでいる。これをなくすことは絶対してほしくない。一度やめたらもうきつとできない。続けてほしい。財源、市の補助金がなくなるというのは、過去からの話し合いで決まったので、今すぐではなく29年この場ですぐ決めるのではなく、その中でいい方法を考えようと私は思っている。結論は出せないが何とか続けていきたい。

■司会 地域協議会のメンバーは高齢化率が高い中では若手の精鋭がそろっている。地域協議会も今年度は開催に当たり若者に入ってもらっている。若い人の意見はないか。

■まちづくり活動団体観光交流部会・夏目 若いかどうか不安だが手を挙げた。

観光交流部会としては、上矢作町のことについてはいろいろなことに携わっていききたいが、一番気になるのは道の駅のリニューアル。市長の話にもあったので、このままりリニューアルが進むのではないかと思う。ただ、私たちの道の駅になるように、私たちにできることはやっていきたい。その中では、私たちは、道の駅の周辺の草刈りを行っている。今年は2回、地域の皆さんにもボランティアで参加していただいて、今回はこれからの未来を背負ってもらおう中学生にもボランティアとして参加してもらった。これからも周辺の草刈り等で協力していければと思う。

あと、地のもの感謝祭も、先ほど写真が出ていたが観光交流部会としても、道の駅のすぐ裏に創造の森、町民もあまり足を踏み入れない場所だが、そこに大きなナラの木があり、そこまでゆっくり歩くと15分ぐらいあり、健康づくりのためとか、上矢作の自然を知ってもらおうという意味でブランコを付けてクイズをしていきながら登ってもらおうということをして今回やらせてもらった。今回は110人ほどがブランコまで足を運んだ。これからもそういった上矢作のすばらしいものを町内、町外の人にも伝えていけるようなことをしていきたい。これからも恵那市としても協力をお願いします。

■市長 ありがとうございます。道の駅の話はずっと聞いている。少し足踏みをしながら進んでいるという印象だ。ただ、作ればいいというものではきつとない。今おっしゃった通り、やるからには成功してほしい。皆さんの中でお客さんに喜んでもらえる、上矢作に来て良かったと言ってもらえるような道の駅にしてほしい。もくもくの森さんも入っていると思う。もくもくの森さんから習った話で、観光はるるぶだと。るるぶというのは、

見る、食べる、遊ぶ。おそらくそのほかにも、見るだけでは1回で終わるけど、その人と交わることで何度もその人に会いに行きたくなる。人が大事だ、ということも聞いている。その意味では、地のもの感謝祭もそうだし、創造の森もそうだ。そこで体験してもらったり、そこでしか味わえないものを食べてもらったり見てもらったり感じてもらったりしゃべってもらったり触れ合ってもらったり。こういったことをすることで付加価値がどんどん上がっていくと思う。その機が熟せばリニューアルに向けて動き出すことができると思う。期待している。地域の皆さん、上矢作全体で取り組んでいただけると嬉しい。

この場を借りて。11月25、26で、L1という女性だけのラリーが来る。岩村主体だが、恵南林道、山岡側から抜けて上矢作に下り、道の駅でちょっとだけ停まってもらう仕組みになっているようだ。上矢作の方から一度ここで停まってくれと。そうすることで人がそこに来てくれるということがあった。そういったことに配慮して、主催者側が道の駅を利用してくれることになった。ぜひ26日は、皆様にも寄っていただき、少しにぎやかして、何か、ゆで卵を売るとか、やったらいいと思うが。ぜひにぎにぎしくやってほしい。

■上矢作こども園・佐藤 上矢作でも数年来空き家が目立つようになった。空き家対策をしたいという話を産業ビジョン検討部会に出したとき、こういうアイデアはどうかとか、町の会議の方でどうかということはお話ししていて、内容的には、空き家を1カ月ぐらい住んでいただいて良さを知っていただく、地域の方たちと交流を持っていただく、興味を持っていただく、で、帰っていただいて、上矢作良かったから住んでみようか、上矢作に限らず恵那市のほかの地区の空き家にもそういうようなことがしていただければ、もうちょっと移住定住につながっていくのではないかという話はさせていただいた。

所在地の分からない、空き家の前に住んでいた人は分かるが実際住んでいる人は誰なんだろうという問題もあるが、うちの近所でも、危険家屋、何年も住んでないと倒れかけているところがたくさんあるので、もうちょっとそういうところに、ここ崩れそうなんだけどという意見に対して、所有者に連絡を取るようなことをしていただけると、我々も子どもがいるので、危険なので、そういうことの情報公開や、お願いしたときにすぐではなくてもいいので返答をいただけて取り組んでいただけると助かる。

■副市長 上矢作でこういう事例があった。川の方へ建物が崩壊しそうなので、市でということで。弁護士にも相談して、撤去という形が一部取れた。恵那市全体でも大きな問題だ。特に取りかかっているのは、市道、県道、国道。特に市道にかかわるものについてはすぐに市で所有者がしっかり管理しなさいということで私の方からお願いすることになっている。民民の場合にこういう問題がちょっと出てくるが、相談には乗るので、前回もそういう相談に乗っているんで、できるところはしっかりやっていく。ただ、情報公開という部分が引っかかった場合は問題があるかもしれない。できるだけ皆さんの相談には乗っていきたい。積極的にやっていく。担当が分からなければ私に言ってほしい。

■司会 要望等は随時振興事務所や区長を通じてお願いもできる。本日まちづくり懇談会ということで、あと5分ほど時間がある。上矢作についてもいい点も指摘いただいたが、ほかに何かないか。

■地域協議会健康福祉部会・西尾 健康福祉部会では市の福祉計画に基づき、この前も一緒になって、福祉計画を調査をしながら上矢作町の全体像を把握しながら新しい計画を立てた。現在上矢作町は恵まれた環境にある。病院から福寿苑まで。福寿苑もいろいろあったが今は落ち着いて、町民から見ると安心した一つの施設になっていると思う。人口がこれだけ減り子どもも減り、一番核になっているのが病院だ。病院が何とか継続してこれからもやっていけるようにしてもらいたい。市長からかかってくれと言われたが、僕らも運動として病院を残そうということをやりたい。過去、合併前にあった、健康づくり活動などを、ウォーキングを初めとして、これから地域で、自分たちで自治組織としてもやっていきたいということで計画を立てている。そういう中で何とかして今後とも、現在まで職員も非常に頑張っているということだが、厳しい状況にあると思う。恵那病院が立派になると上矢作病院の患者が減るのではないかと、先生方も高齢化したとか。何とかしてここで住み続けるために、守っていききたい大切なものなので、今後よろしくお願ひしたい。

■市長 昨年のこの時期選挙があり、その前に個人演説会でもこちらへお邪魔した。特に上矢作町の皆様からは病院の存続についての強い要望をいただいている。それは十分受け止めている。不用意に統合しますというようなことを言うつもりはない。存続できる前提で考えたい。ただ、患者が全然来ないということでは病院の存続が難しい。まずは使っていただくこと。町全体で健康や福寿のまちづくりをされてきたので、愛知県、長野県からも利用されているということなので、そちらも含めてここを使ってくれと。サービスの向上をやってくれと。病院の中でもし悪いことがあったら、市の直営だが、この病院はもっとここを直せということまで含めて、地域の中でかわいがってもらいたい。

■副市長 医師の確保について。一番頼りにしているのが県だ。県から派遣してもらい今上矢作病院が何とかなっている。今後も県にお願いするのは第一命題だ。市長に、この部分だけはしっかり要望してくれと言われ、県に行くたびに担当のところに言っている。医者の確保がしっかりできればと思っている。

■司会 私ごとだが、インフルエンザの予防接種をしてきた。皆様方も上矢作病院で人間ドックや予防接種を受けてほしい。

■市民 最後に市長にプレッシャーをかけたい。いい話を聞き大変勉強になった。すばらしい仕事をしようという覚悟が見えた。これを見える化してほしい。市民はいくらやってもなかなか末端にまで届かないので、私たちも十分アピールしたいし、市長は若いので何期も続けてやってほしい。期待している。3年だが、その後は選挙になるので、2年しか

ないと思って頑張ってもらいたい。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 長い時間、平日の夜間にもかかわらずお集まりいただきありがとうございました。今日も活発な意見をいただいた。これをきちんと受け止めて明日からの市政に携わりたい。今日この場でなくても、振興事務局があり女性の所長がいる。フレンドリーだと思うので、意見を伝えていただければ私に届く。意見を寄せてほしい。引き続きよろしく願います。

■副会長・片桐 長時間、平日の仕事の後、ありがとうございました。今までは市長と語る会で敵対しているような話だったが、今年からこうした懇談会になった。来年以降、こういう形でまた有意義な懇談会にしてほしい。恵南商工会青年部は市長と飲みながらざっくばらんな語る会というのをしている。本来ならそういう形でしたいがなかなかそうもいかない。また今後につなげていきたい。要望等は地域協議会などを通して私どもが代表してお願いしていく。今日はありがとうございました。

■司会 以上で終了する。

[閉 会]